

GOOIT Gy560 周波数カウンター ユーザーマニュアル

2012/3/5 Version 1.00 JM1LJS WEB SHOP

1. 始めに

GOOIT エレクトロニクス社 Gy560 をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。本機の操作は、ロッドアンテナを伸ばし、1つのボタンを押すだけの簡単操作でご使用頂けます。また、本機は電源オン後1分間でオートパワーオフが働きますので、電源の切り忘れでバッテリーが無くなってしまふ心配もありません。

2. Gy560 の仕様

Gy560 の仕様は以下の通りです。

項目	内容
測定周波数	50MHz ~ 2.4GHz
測定周波数の分解能	200KHz(デジタルラジオ信号), 1KHz, 100Hz
測定アンテナ	内蔵ロッドアンテナ
測定間隔	UHF: 8m 以内, VHF: 5m 以内
設定	1つのボタンで、全ての機能を設定できます。
機能	受信信号強度をシグナルバーで表示します。 1分間でオートパワーオフが働きます。但し、測定周波数の分解能を200KHz(デジタルラジオ信号) に設定した場合、オートパワーオフが働きますのでご注意ください。
バッテリー	9V 6F22 一般に売られている 9V の角形乾電池ですので、電池の入手のご心配もありませんし、電池交換も容易に行えます。電池交換の際は、裏面の4本のネジを外して電池を交換して下さい。

3. Gy560 のご使用方法

3-1. 電源オン

始めに本機左上部の黒いボタンを“長押し(押し続けて下さい)”して、液晶画面に [MINI COUNTER] とオープニング画面が表示され、その後 [Step 200KHz] [Step 1KHz] [Step 100Hz] とスクロールを繰り返すことを確認して下さい。

3-2. [Step 200KHz]

ここで、液晶画面に [Step 200KHz] と表示された時に“長押し(押し続けている)”しているボタンから手を放します。

すると、液晶画面に [0.0 NoSignal] と表示され、なにも起こりません。試しに本機の真横で 430MHz 帯のハンディー機でキャリアを送信しても、なにも変化がありません。これがどういうことかと言いますと、[Step 200KHz] はデジタルラジオ信号の専用設定なのです。日本ではこのデジタルラジオは使われておりませんので、本機はなにも反応しないのです。従いまして、日本では [Step 200KHz] はお使い頂けません。

電源を切る際は、液晶画面を見ながら、本機左上部の黒いボタンを“長押し”して下さい。

3-3. [Step 1KHz]

もう一度始めから始めます。本機左上部の黒いボタンを押して、液晶画面が消える(電源が切れる)ことを確認して下さい。再び本機左上部の黒いボタンを“長押し(押し続けて下さい)”して、[Step 1KHz] と表示された時に“長押し(押し続けている)”しているボタンから手を放します。

本機は、分解能 1KHz の周波数カウンターとして仕事を始めます。試しに本機の真横で 430MHz 帯のハンディー機でキャリアを送信すると、本機の液晶画面はハンディー機のキャリアを送信している周波数が表

示されます。そして、その際に液晶画面を見ながら本機左上部の黒いボタンを短く(0.5秒位)押すと、液晶画面は表示された周波数をメモリーして表示し続けてくれます。

この液晶画面が表示された周波数をメモリーする機能は何度でも使えます。もう一度本機左上部の黒いボタンを短く押すと、周波数メモリーが解除され、本機は再び分解能 1KHz の周波数カウンターとして仕事を始めます。

電源を切る際は、液晶画面を見ながら、本機左上部の黒いボタンを“長押し”して下さい。

3-4. [Step 100HHz]

もう一度始めから始めます。本機左上部の黒いボタンを押して、液晶画面が消える(電源が切れる)ことを確認して下さい。再び本機左上部の黒いボタンを“長押し(押し続けて下さい)”して、[Step 1KHz] と表示された時に“長押し(押し続けている)”しているボタンから手を放します。

本機は、分解能 100Hz の周波数カウンターとして仕事を始めます。試しに本機の真横で 430MHz 帯のハンディー機でキャリアを送信すると本機の液晶画面はハンディー機のキャリアを送信している周波数が表示されます。そして、その際に液晶画面を見ながら本機左上部の黒いボタンを短く(0.5秒位)押すと、液晶画面は表示された周波数をメモリーして表示し続けてくれます。

この液晶画面が表示された周波数をメモリーする機能は何度でも使えます。もう一度本機左上部の黒いボタンを短く押すと、周波数メモリーが解除され、本機は再び分解能 100Hz の周波数カウンターとして仕事を始めます。

電源を切る際は、液晶画面を見ながら、本機左上部の黒いボタンを“長押し”して下さい。

3-5. ワンポイント

本機は、本機左上部の黒いボタンを長押しする / 短く押すによって全ての操作が可能です。この押し方は、ご使用になる前に、ご納得頂けるまでお試し下さい。10分もあればご納得頂けるはずです。

4. Gy560 の用途

本機はその価格からもお分かり頂けるように、簡易型の周波数カウンターです。具体的用途は、以下が考えられます。

4-1. 自作派

発振器等の発振状況を確認、調整する際は、無線機器のカバーを開けて、発振部の側でアンテナを伸ばして本機でモニターすれば、発振状態を確認できます。同様に自作の発振器の動作確認もアンテナを伸ばして本機でモニターすれば、発振状態を確認できます。

4-2. 盗聴器発見

元来の本機の用途はこれでしょうが、アンテナを伸ばして本機をお部屋の中でかざせば、盗聴器の送信周波数が表示されます。本機を持ってお部屋の中を歩き回りますと、液晶表示のシグナルバーが大きくなるポイントが見つかるはずです。それは、盗聴器に近づいていることになりしますので、シグナルバーが大きくなるポイント(信号強度が強いポイント)を探索すれば、盗聴器を見つけ出すことができます。

5. 販売者

JM1LJS WEB SHOP

〒223-0065 横浜市港北区高田東 4-22-15

海 秀行 (かい ひでゆき)

radio@rental-shack.com